



# 森の息吹

No.186 令和4年6月号  
2022 5月30日発行  
編集代表：五賀利雄  
0133-26-3738

## 協働の森。Fの森それぞれ山での活動開始

### 5月の活動報告

**5月15日(日)** 植樹と協働の森現地での検討会と除伐 参加者 12名  
六角氏の山にてミズナラなど300本の苗木の植樹を行いました。  
その後、協働の森に移動し本年度モニタリング区画のニセアカシア除伐を行う。ニセアカシアは思いのほか数が少なく短時間で終了した。



**5月18日(水)** Fの森 苗木の目印設置作業 参加者 9名  
企画会議メンバー・エゾロックと合流し今年度の全体的な進め方の説明を受ける。その後、Fの森を全員で散策し保育作業の概要を視察し参加者全員で苗木目印設置を行う。  
昼食休憩後は担当エリアの目印設置作業を行う。



**5月22日(日)** Fの森 苗木設置作業 参加者 8名(1名午前のみ)  
先日の続き2回目の苗木目印設置作業を行う。  
昨年に立てた4尺女竹は半数ほどが折れたり倒れたりしており再度立て直した。



新たに見つけた苗木にも目印竹を設置した。  
昼食後は別エリアの目印立てを行い15:00に終了した。

### 6月5日(日)

内容 「協働の森」

集合場所と時間 山田倉庫に8:45 土取り場跡地の入口 9:00集合 午前で終了

持ち物 手のこ・手鎌・刈払い機・枝切りチェーンソー・飲み物

**6月12日(日)** 内容 140年の森 下草刈りと補植 午前で終了

集合場所と時間 山田倉庫に9:00 持ち物 刈払い機・スコップ・手鎌

### 6月19日(日)

内容 Fの森(道民の森) 苗木周辺の手鎌でのつぼ刈り

集合場所と時間 9:00に山田倉庫

持ち物 手鎌・弁当・飲み物 砥石と水

**6月26日(日)** 内容 Fの森 苗木周辺の手鎌でのつぼ刈り2回目

集合場所と時間 9:00に山田倉庫 持ち物 手鎌・弁当 飲み物



### 6月の活動予定

3月末に遊覧船が沈没した悲惨な事故のあった知床半島はオホーツク海に突き出した連峰である。(北から知床岳1254m・硫黄山1562m・羅臼岳1661m・海別岳1419m)

当時、東藻琴高校に勤務していたが、同じ網走管内の置戸高校に勤めていた山仲間の二人と春休みを利用して三人で知床連峰の縦走を計画した。

昭和43年3月25日に出発し、ウトロよりスキーで硫黄山に向かった。当時は、現在よりも流氷が厚く、遅くまで着岸しており、丁度、離岸を始めた時期で黒い岩・白い流氷・青い海のコントラストが素晴らしく「この時期の流氷が最高だ」と話したのを覚えている。

硫黄山の途中に太平洋戦争時に硫黄を採掘していた後の近くに雪洞を掘り一泊した。荷を軽くする目的でテントは持たず、山岳用のアルミスコップとノコギリを持参していた。翌日、硫黄山に登頂し羅臼岳を目指して縦走に入ったが2時間くらいして天気が急激に荒れ、吹雪で視界が悪く稜線は厳しい状況なのでウトロ側へ支尾根を少し下り雪洞を掘り避難した。



写真は編集者提供



写真は編集者提供

天気の回復を待ったが三日間吹雪が続き回復の兆しは見え、雪洞も埋もれそうになって来たので、縦走を諦めてスキーでウトロへ逃げ帰った。

ウトロのユースホステルに泊り、反省会をすることになった。あまり高い山ではなかったのが甘く見ていたこと、春山の認識だったが冬山だったこと、知床の気象の変化が早い事などを話し合った。

若き日の山行の失敗例として記憶に残っている。この時のユースホステルの経営者が桂田さんという名であった。

### 編集後記

移住間もないころにカッコウが鳴いたら野菜の植え付けをしなさいと教わりました。カッコウは静かな湖畔の森の陰でしか鳴かないと思いきや道路際の電線の上で鳴いていました。水芭蕉も尾瀬にしか咲かないと思っていましたが田んぼの用水路に群生していました。あまりにも身近過ぎる自然です。

Fの森保育活動の初日に1時間ほどをかけて各エリア全体を参加者全員で散策しました。

目先の苗木の目印立てや草刈りでの視野でしか見られなかった景色

とは少し違って見えました。

様々な木や花、草の名前をふんわりと聞きながら、また、小川を群れで泳ぐ「かわやつめ」を見つけたり、楽しい時間でありました。作業エリアには数頭のエゾシカの頭蓋骨や背骨などが落ちていて日常生活では見る事がない光景です。

シラカンバに所属していて良かったと思いました。 カワヤツメ⇒

